

各 位

福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目5番28号
株式会社アイフリークモバイル
代表取締役社長 上原 彩美
(コード番号: 3845 JASDAQ)
問い合わせ先 取締役兼管理部長 紀伊 克彦
E-mail ir3845@i-freek.co.jp
U R L <https://www.i-freek.co.jp/>

営業外費用、特別損失の計上及び

2019年3月期の通期業績予想と実績の差異に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2019年3月期において、営業外費用及び特別損失として計上することについて決議いたしましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

また、2019年2月1日に公表しました2019年3月期(2018年4月1日~2019年3月31日)の通期連結業績予想及び通期個別業績予想と本日公表の実績数値との差異について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 営業外費用及び特別損失の計上

1) 貸倒引当金繰入額(個別)

子会社貸付金に対する貸倒引当繰入額9百万円を計上しました。

2) 匿名組合投資損(個別)

匿名組合に対する投資損失124百万円を計上しました。

3) 固定資産減損損失(個別及び連結)

事業環境の変化に伴う収益性の低下等により、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき回収可能性を検討した結果、計33百万円を特別損失として計上しました。

4) 特別退職金(個別及び連結)

本日公表の「本店移転および定款の一部変更に関するお知らせ」での開示のとおり、本店(福岡市)を閉鎖に起因する従業員に対する特別退職金の支払費用として、計13百万円を特別損失として計上しました。

5) のれん減損損失(連結)

当社の連結子会社2社について、買収時の計画利益を下回っているため、今後の計画を慎重に見直し、のれんの減損損失52百万円を特別損失として計上しました。

6) 関係会社株式評価損(個別)

上記5)ののれん減損損失の計上を踏まえ、当社が保有する連結子会社2社の株式について再評価した結果、関係会社株式評価損として65百万円を特別損失として計上しました。

2. 2019年3月期通期連結業績予想と実績との差異（2018年4月1日～2019年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想（A）	百万円 1,175	百万円 △346	百万円 △345	百万円 △357	円銭 △24.86
今回公表予想（B）	1,187	△355	△355	△477	△30.12
増減額（B-A）	12	△9	△10	△120	—
増減率（％）	1.02	—	—	—	—
（参考）前期実績 （2018年3月期）	—	—	—	—	—

3. 2019年3月期通期個別業績予想と実績との差異（2018年4月1日～2019年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想（A）	百万円 1,017	百万円 △198	百万円 △197	百万円 △205	円銭 △14.27
今回公表予想（B）	986	△226	△360	△486	△30.35
増減額（B-A）	△31	△28	△163	△281	—
増減率（％）	△3.04	—	—	—	—
（参考）前期実績 （2018年3月期）	904	△28	△31	△33	△2.41

4. 差異の理由

（連結業績予想）

連結業績につきましては、個別業績予想の修正理由によるものに加えて、上記1. で記載した通り、特別損失として115百万円を計上した結果、前回公表予想を120百万円下回ることとなりました。

（個別業績予想）

個別業績予想につきましては、上記1. で記載した通り、営業外費用として136百万円を計上した結果、前回公表予想を163百万円下回ることとなりました。

また、上記1. で記載した通り、特別損失として、5百万円を計上した結果、前回公表予想を281百万円下回ることとなりました。

詳細は、本日公表の2019年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）をご参照ください。

以上